

差し掛け屋根（招き屋根）の頂側窓の入力（2階建て）

文書管理番号：1068-04

Q. 質問

棟の高さが異なる切妻屋根（差し掛け屋根、招き屋根）の間のできる立ち上がりの壁に、明かり取りの窓（頂側窓）を入力したい。

A. 回答

頂側窓を作成するには、プラン図で窓を入力する位置に壁を配置し、そこに窓を入力して高さを調整します。

その際、当該階に下り壁を配置して作成する方法と、上階に区画を作成して表現する方法があります。ここでは、当該階に下り壁を配置して作成する方法を説明します。プレゼン（パース）を想定した作成方法となります。

上階に区画を作成して表現する方法や、2階に小屋裏を設定して表現する方法につきましては、こちらをご覧ください。

[\[1069\] 差し掛け屋根（招き屋根）の頂側窓の入力（3階建て）](#)

[\[1173\] 差し掛け屋根（招き屋根）の頂側窓の入力（小屋裏利用）](#)

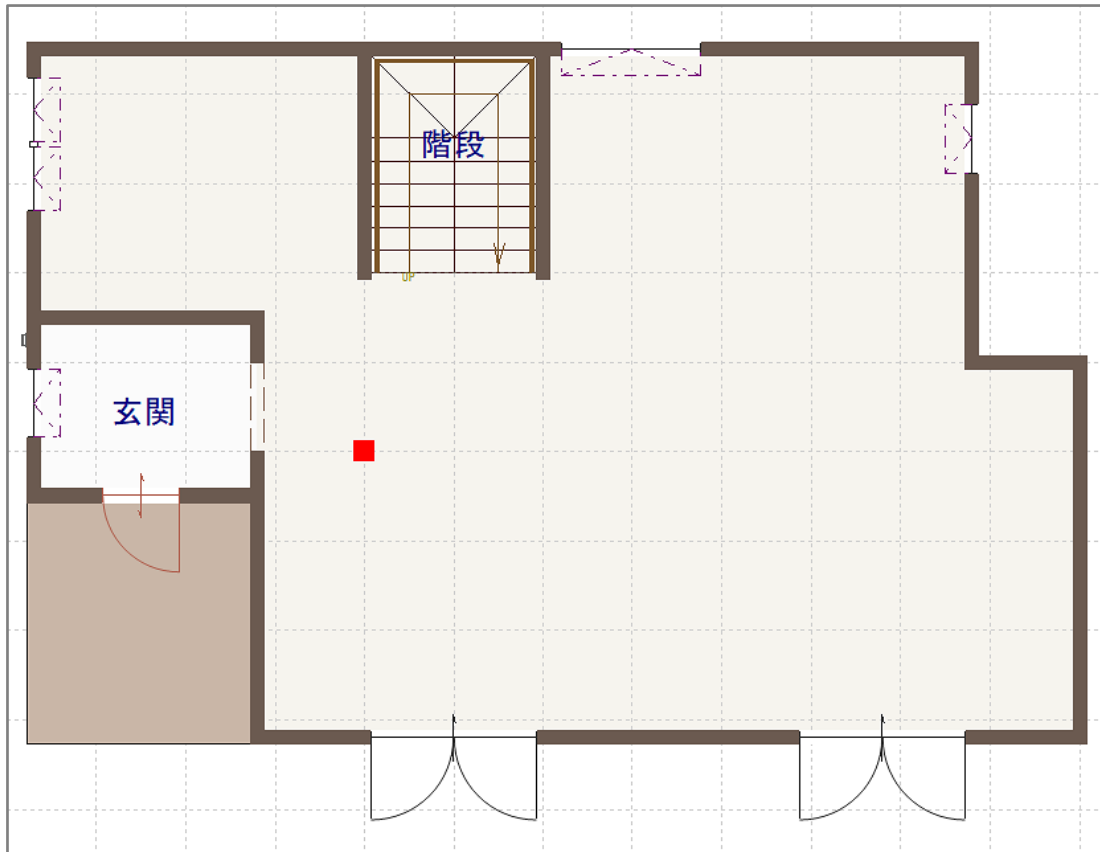
作成の流れ

- ① プラン図の入力
- ② 屋根伏図の入力
- ③ 屋根間の外壁調整
- ④ パース確認

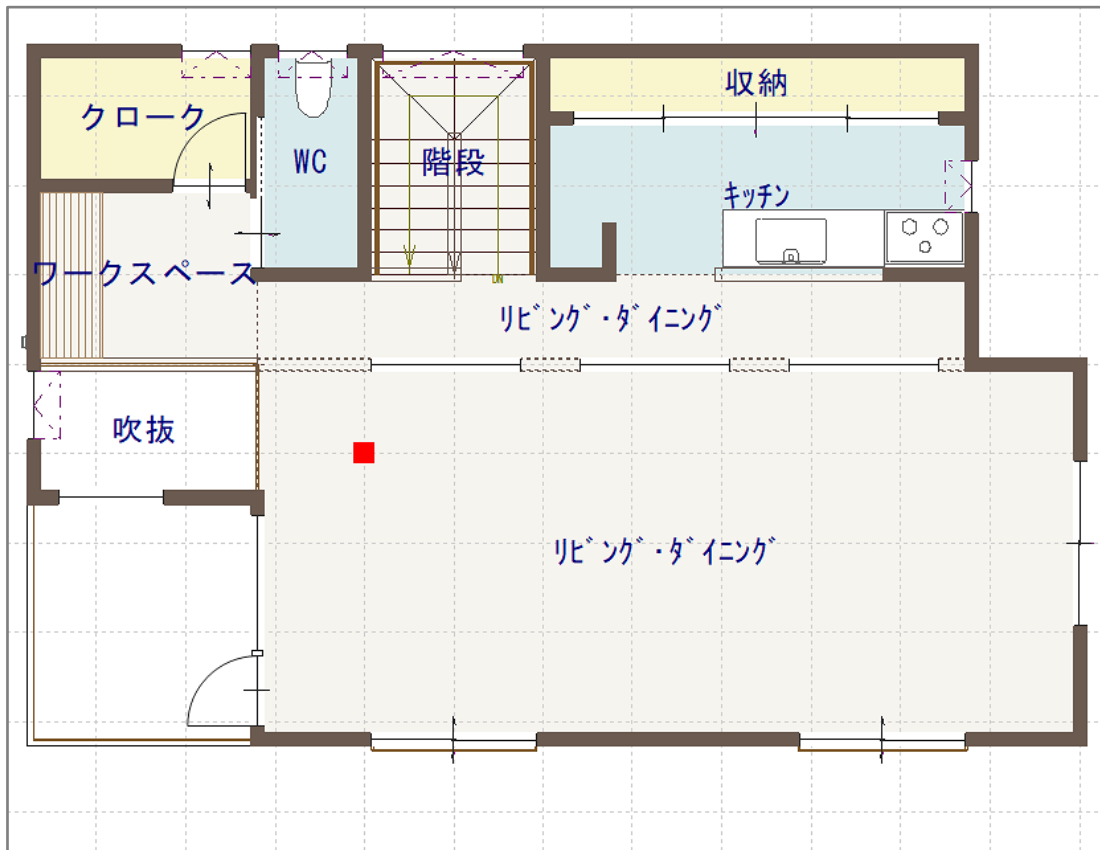
操作手順①：プラン図の入力

ここでは2階がリビングの建物で、2階のリビング上部に明かり取りの窓を配置します。間取りの詳細な入力手順は省略します。

<1 階平面図> 1 階の間取りは簡略化しています。

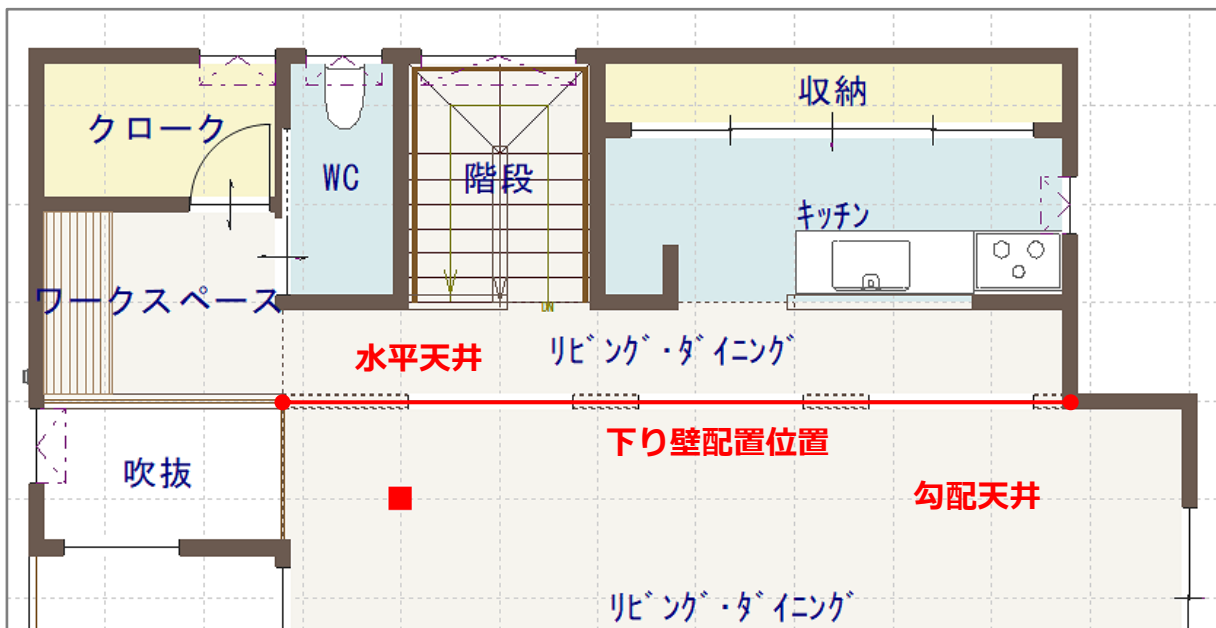


<2 階平面図>



● 下り壁を配置し、高さを変更

- ① (プラン図)で、2階のリビングの頂側窓が入る位置に (下り壁)を入力



* 天井の高さに合わせ、区画を分断するように配置します。

- ② (要素選択)で入力した下り壁を選択後、右クリック

- ③ 壁の右クリックメニューから「高さ設定」をクリック

* 壁高さ変更の画面が表示されます。

- ④ 入力した下り壁の高さを変更

* 下り壁の配置基準は天井です。

ここでは、天井面より下に壁を下げませんので、高さは「1」mm とします。

壁高さ変更 ×

標準設定 ▼

壁名 壁高

起点高 終点高


中間高

● 天井の高さを変更

- ① (要素選択)で、勾配天井にする区画を選択後、右クリック
- * 区画を選択する際は、別の要素を選択しないよう、何もないところでクリックしてください。別の要素を選択した場合は、右クリックし「次候補」を選択またはキーボードの [Tab] キーを押し、区画を選択してください。

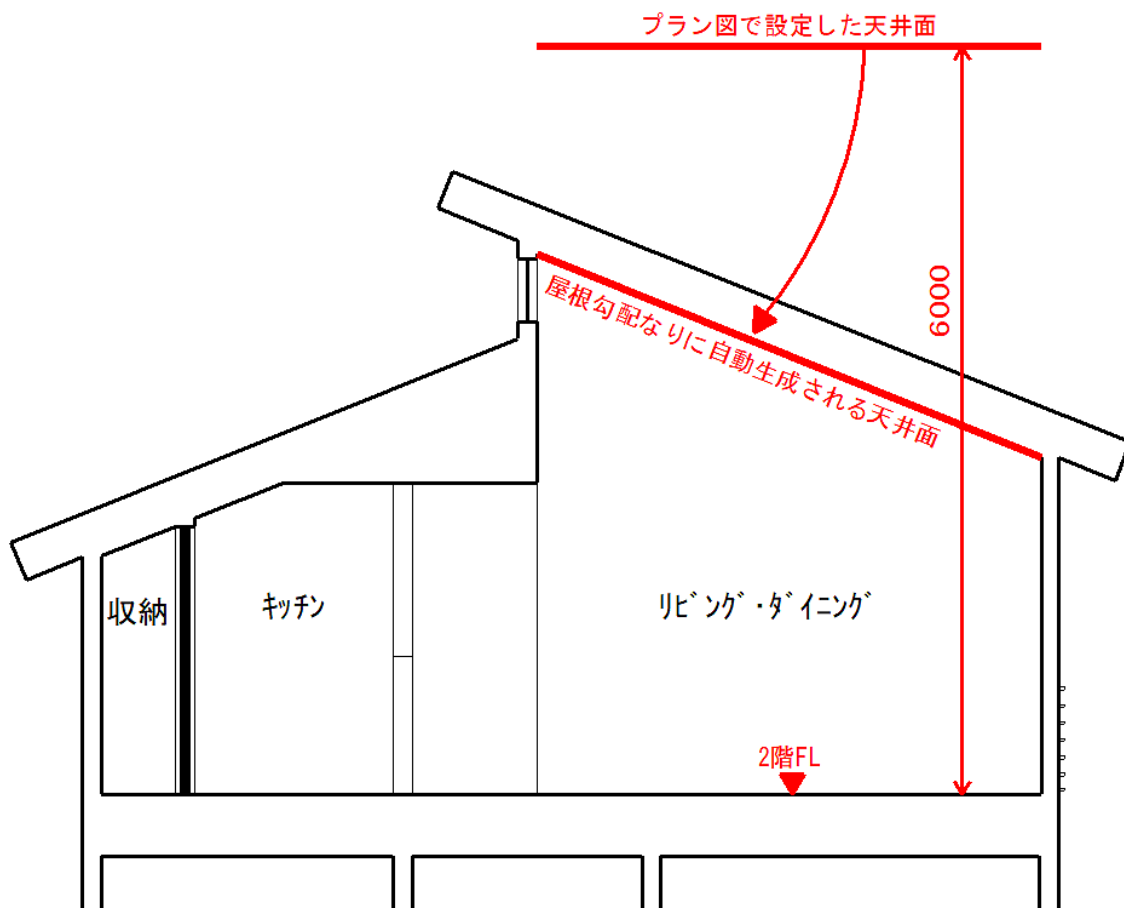
- ② 部屋のスマートメニューから天井高を変更

- * 勾配天井部分は天井高「6000」、水平天井部分は天井高「2500」で設定します。

	リビング・ダイニング	<input checked="" type="checkbox"/> 部屋名	<input type="checkbox"/> 収納対象
	45	6000	19.3帖
床高	天井高	面積	収納有効率
			100

【参考】

天井の高さを屋根よりも高くすることで、天井面が屋根勾配なりに自動生成されます。



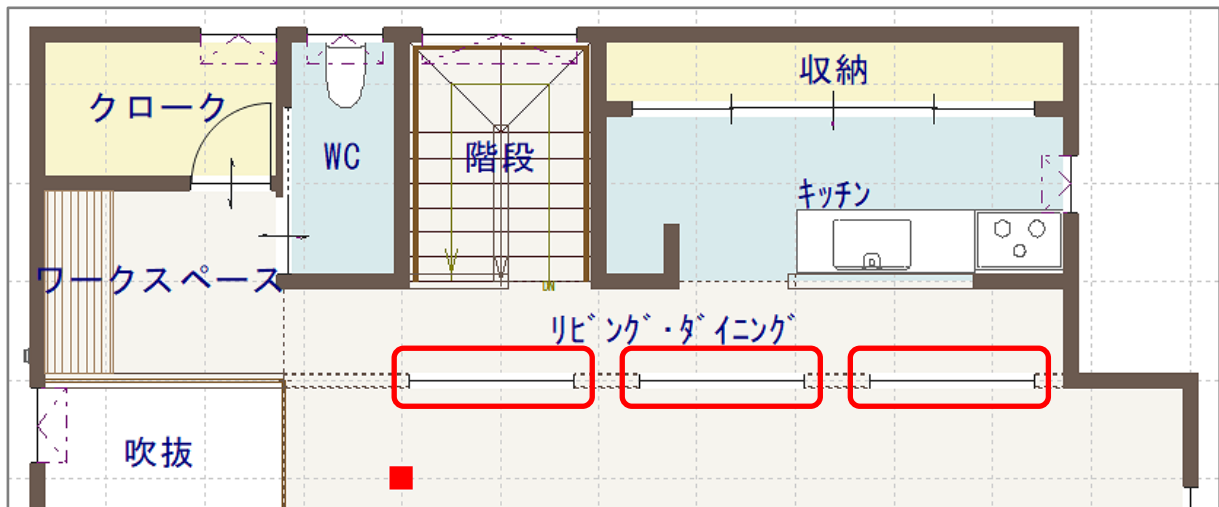
- * 勾配天井の設定方法については、こちらをご覧ください。

[\[1049\] 勾配天井の作成方法](#)

● 頂側窓を配置し、高さを調整

① (建具)の (FIX)をクリック

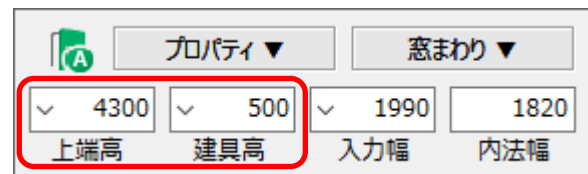
* ここでは、下のようにFIXを3つ配置します。



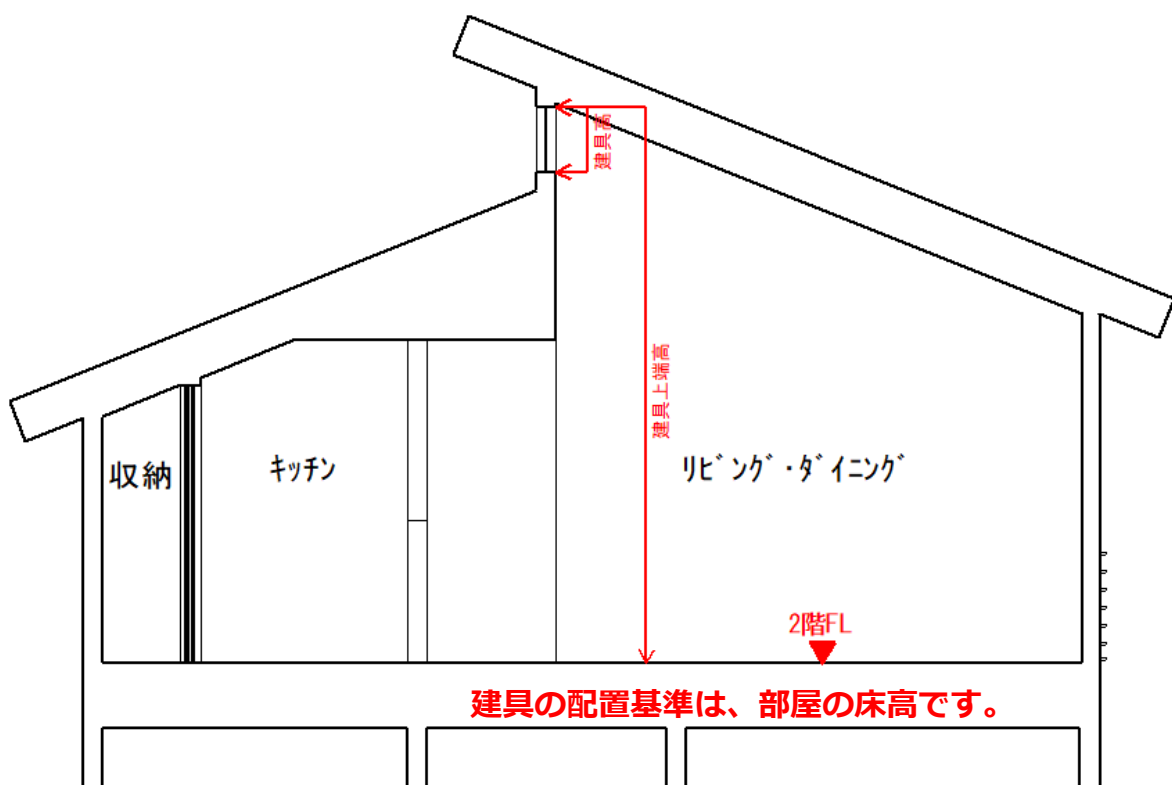
② 配置したFIXの1つを (要素選択)で選択後、右クリック

③ 建具のスマートメニューから、建具の高さを調整


* ここでは、上端高を「4300」、建具高を「500」に設定します。



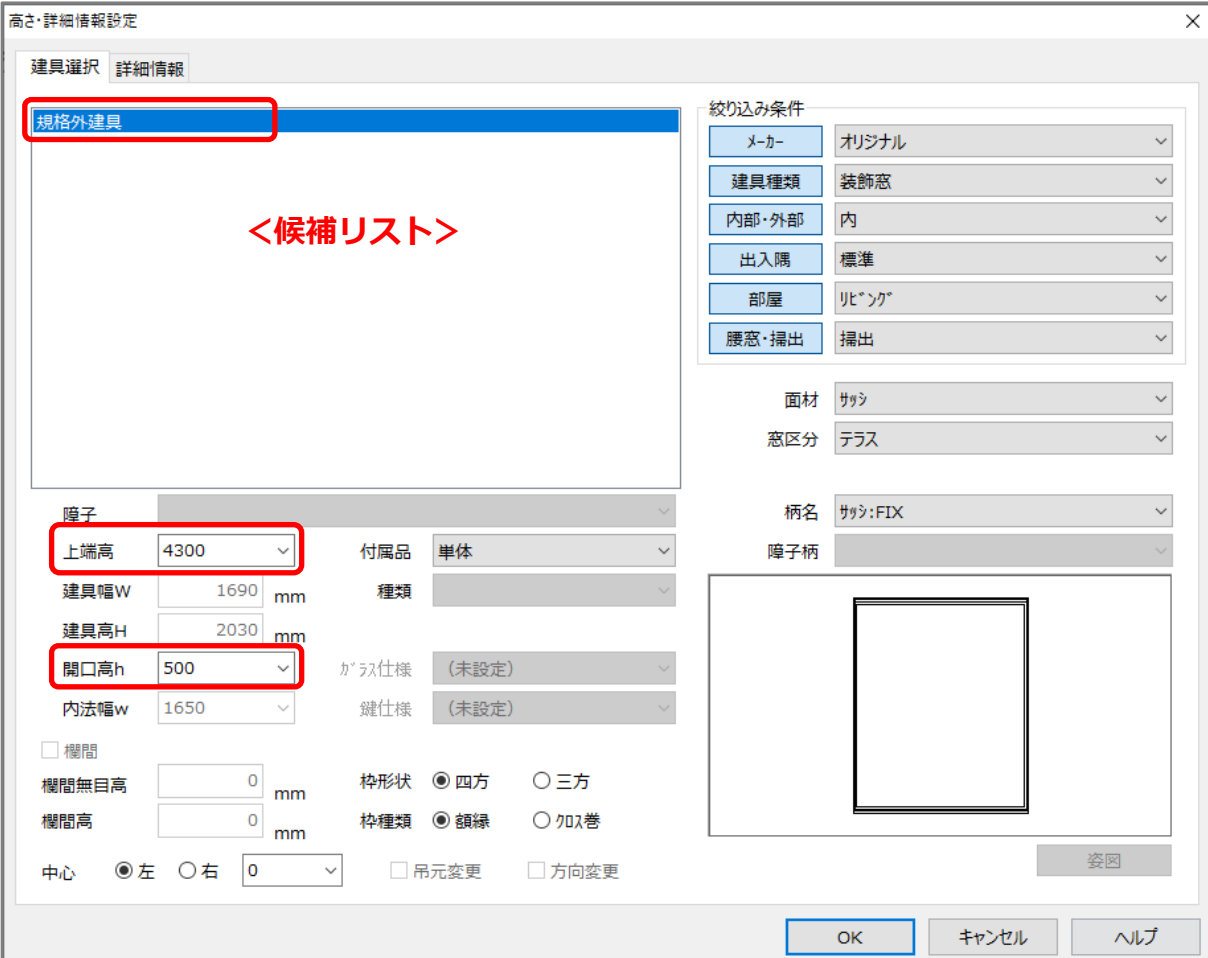
3つのFIXとも同じ高さに調整します。



【参考】 建具部材指定で建具を入力している場合

 (物件概要)の 3/4 ページ目「建物仕様」パネルの「建具部材指定」にチェックをつけて建具の入力を行っている場合、建具を選択した状態で右クリックしても、スマートメニューは表示されません。

建具を選択後、右クリックメニューの「高さ設定」で建具の高さを変更してください。



候補リストから窓の規格を選択し、窓の上端高を「上端高」に入力してください。

使用する窓の規格が候補リストに無い場合は、規格外建具を選択し、「上端高」「開口高 h」を入力してください。

操作手順②：屋根伏図の入力



ここでは、大まかな作成手順を説明します。

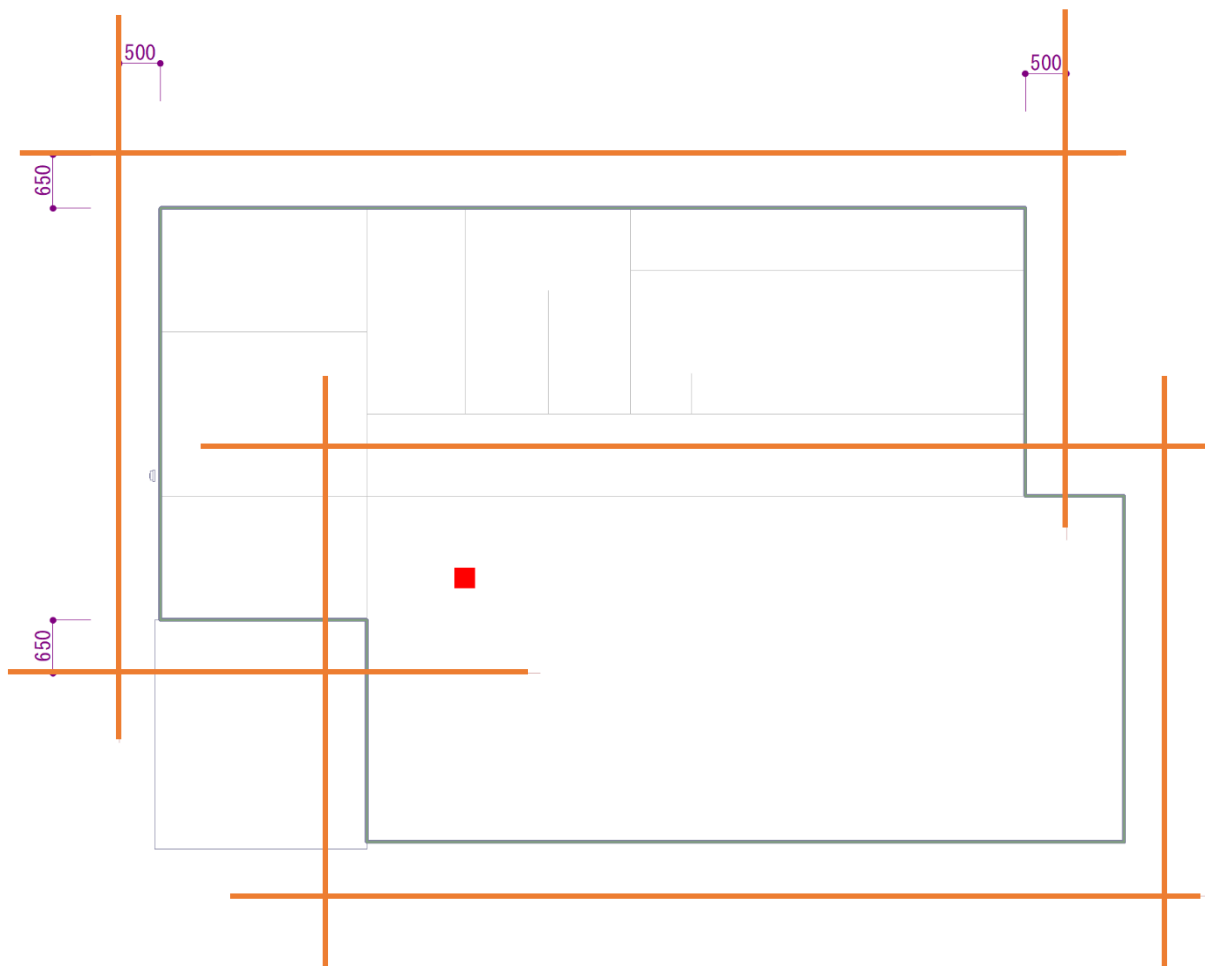
【参考】

屋根の詳しい入力方法については、こちらをご覧ください。

[\[1044\] 切妻屋根の手動作成方法](#)

[\[1045\] 屋根手動入力のポイント](#)

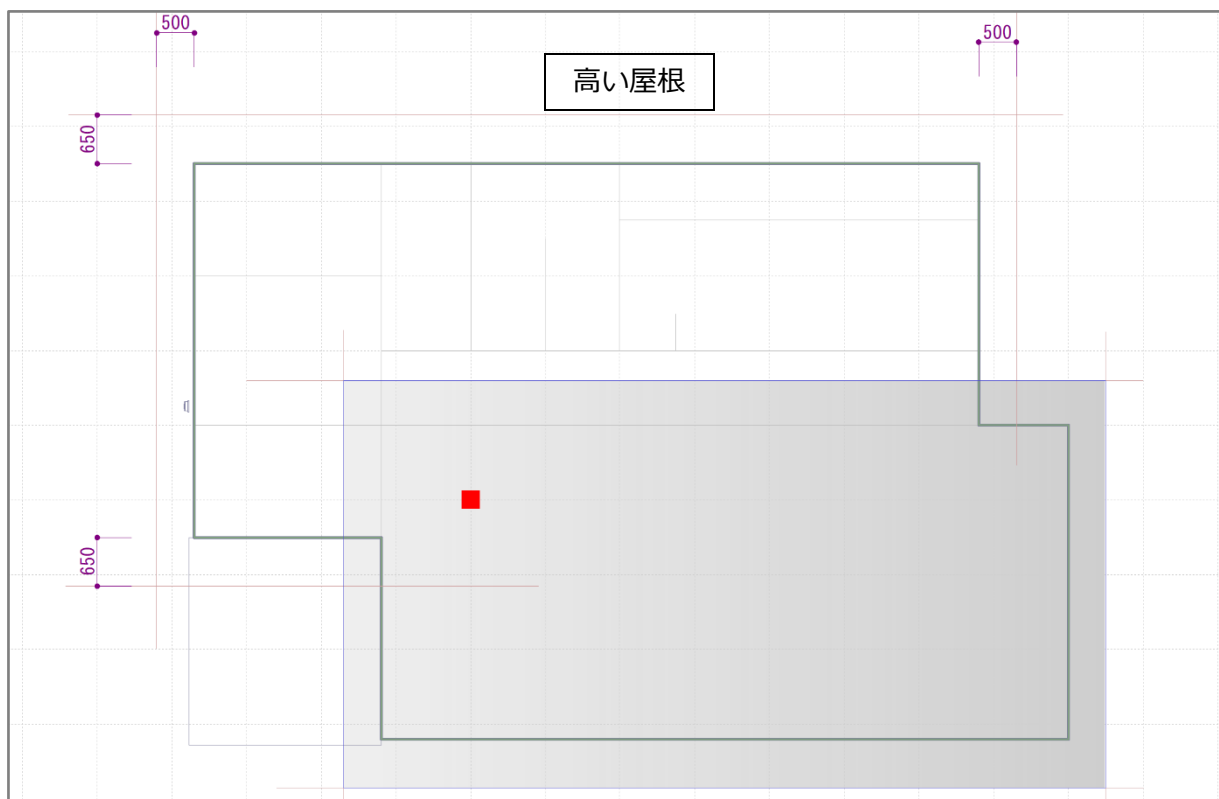
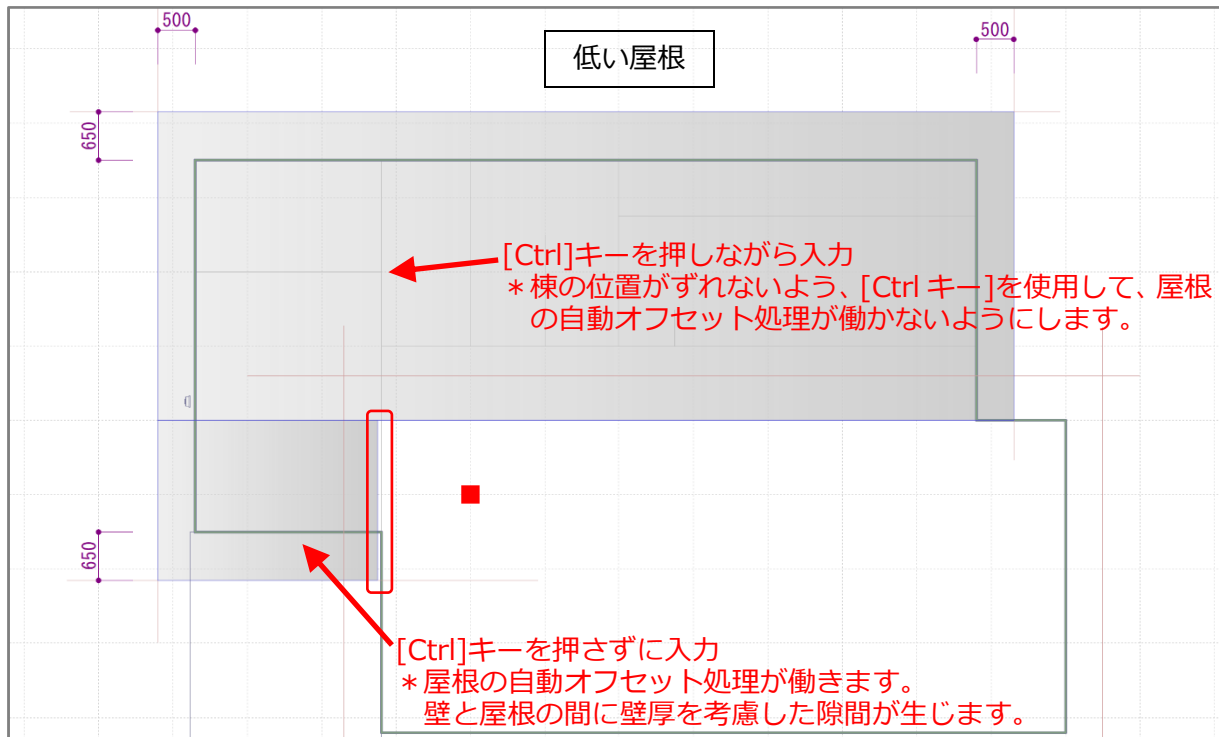
- ①  (屋根伏図)で 2 階を表示
- ②  (下書き線)で、屋根面の形状の下書き線を配置
 - * 高さの違う屋根を、同一階で入力します。



<2 階屋根伏図 下書き線配置例>

③ (面作成)の (屋根面)をクリックし屋根面を入力

- * 下書き線に沿って屋根面を入力します。
- * 頂側窓が配置されている壁に接する大きな屋根面は、[Ctrl]キーを押しながら入力してください。



- * 分かりやすいように低い屋根面と高い屋根面を別々に表示していますが、実際には同一階で重ねて入力します。

- ④ (面設定)で高さや勾配などを決め、
屋根を作成

* GL基準は2階軒高をそのまま使用
します。屋根3面とも同じ設定で
す。

面設定

GL基準 mm
 軒基準 mm
 勾配 /100

カーベスト, 102, 222

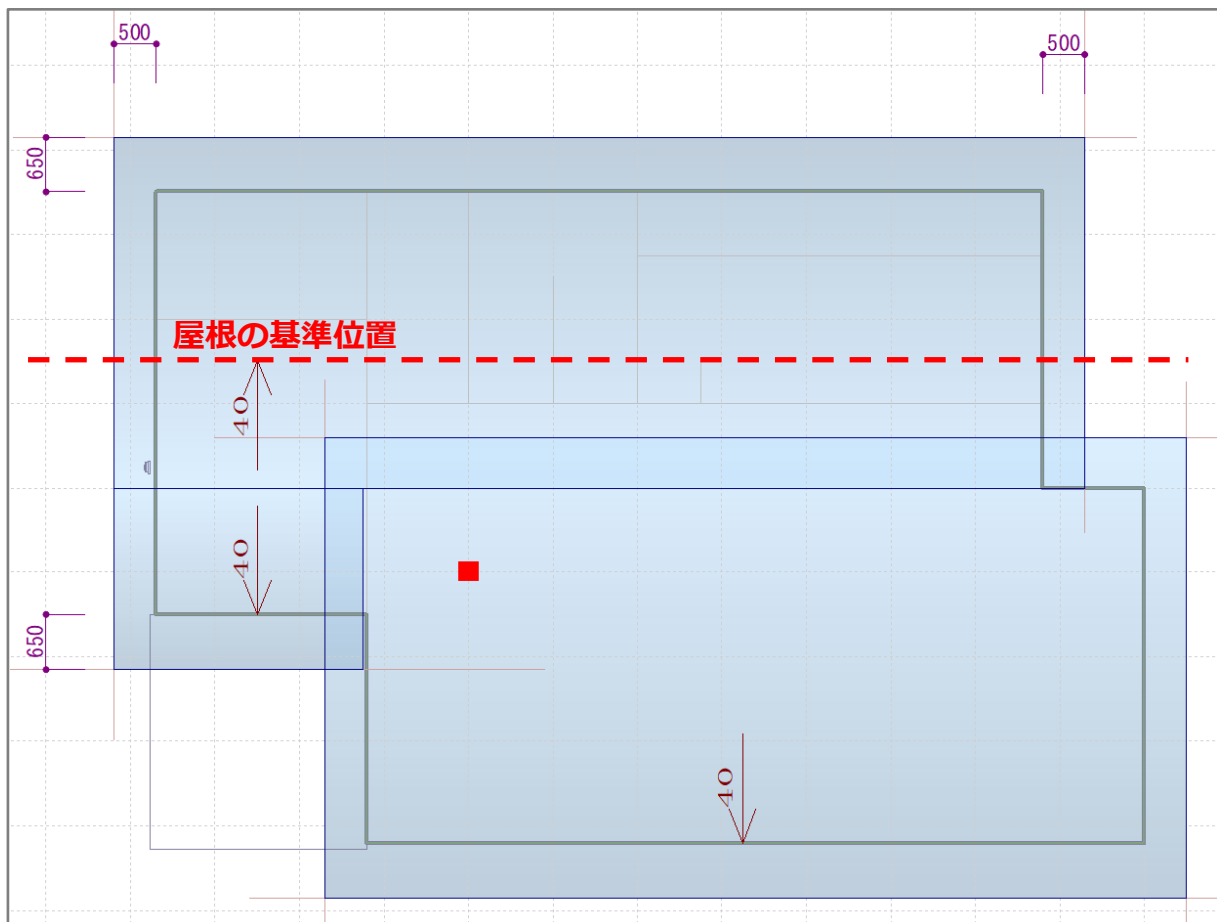
屋根属性

軒先厚 mm
 屋根厚 (A+B+C+D) mm
 A: 仕上厚 mm
 B: 野地板厚 mm
 C: 他下地厚合計 mm

 D: 垂木高さ mm

大屋根 屋根面をすべて変更します。

* ここでは、屋根の一部が母屋下がりになるため、低い屋根の基準位置を下のようにとりま
す。

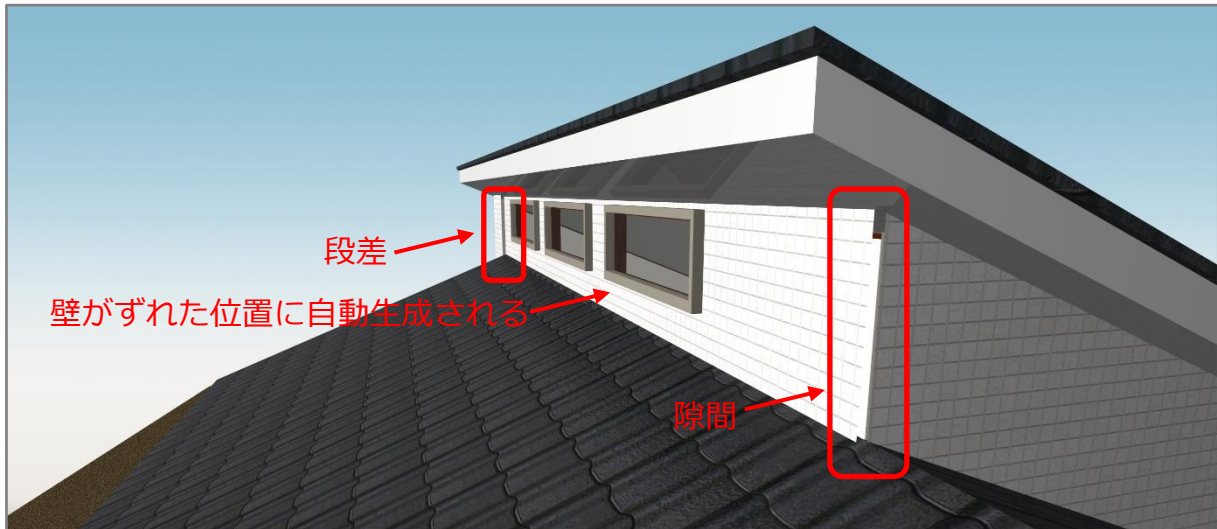


操作手順③：屋根間外壁の調整

同一階で上下に重なる屋根と屋根の間には、自動で外壁を生成させる動きがありますが、建物や屋根の入力方法によっては、意図しない形状で壁が生成される場合があります。

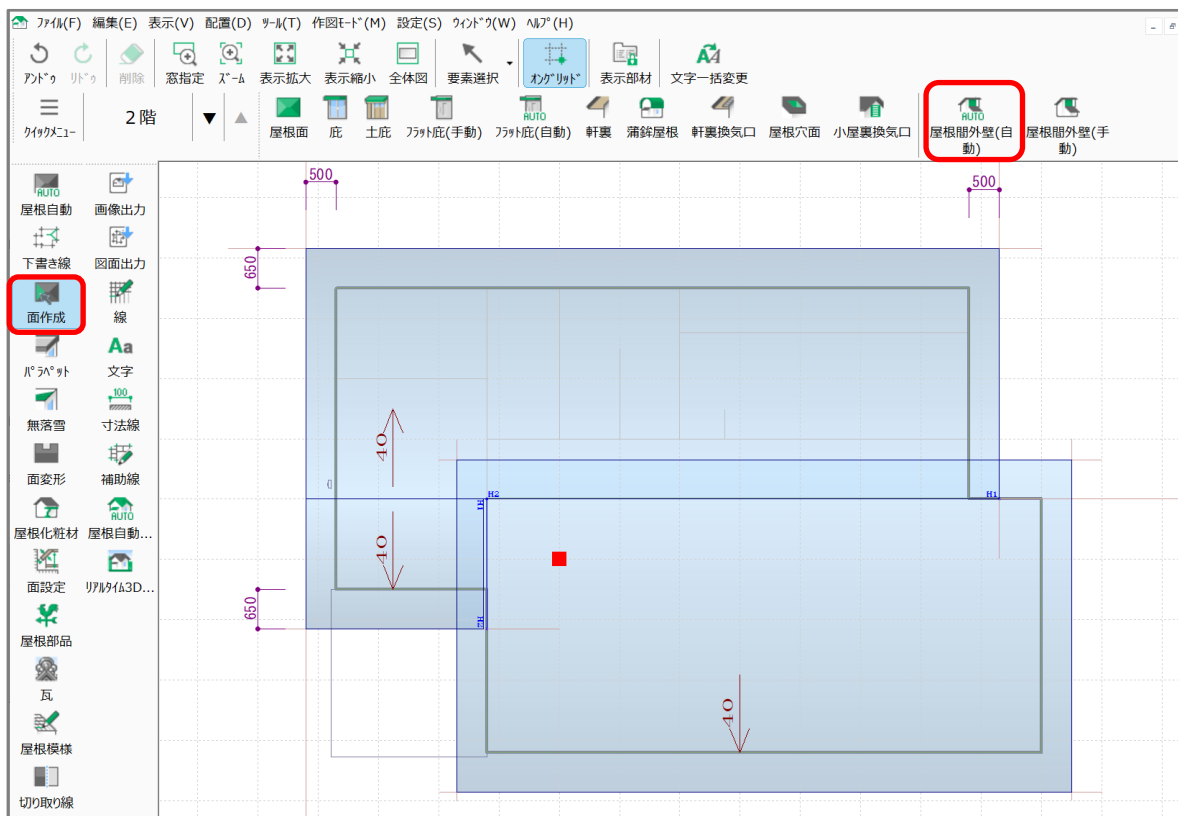
ここでは、壁を生成させたい位置と異なる位置に壁が生成され、壁に段差や隙間が生じているため、

(屋根伏図)にて (屋根間外壁(自動))を使用して調節します。





① (屋根伏図)で 2 階を表示

② (面作成)をクリックし、 (屋根間外壁(自動))をクリック




* 青色の線（屋根間外壁）が配置されます。

- *  (屋根間外壁(自動))で外壁の位置 (壁芯) を正しく認識しない場合や期待する箇所に配置されない場合は、 (屋根間外壁(手動))を使用して外壁の壁芯となる位置を直接指示してください。



- * 屋根間の外壁は指示した位置に生成され、壁の隙間や段差が解消されます。

操作手順④：パース確認

外観、内観を  (3D パース) で確認します。



<外観パース>



<内観パース>